

就任挨拶

沖縄県医師会 理事 鈴木 幹男



このたび、沖縄県医師会理事を拝命いたしました琉球大学病院長の鈴木幹男と申します。前任の大屋祐輔先生より大切な職を引き継ぐこととなり、その重責を痛感するとともに、先生のこれまでのご尽力に深く敬意を表します。

沖縄県は、他府県とは異なる独自の人口動態を歩んできました。これまで全国的に人口減少が進む中であっても、比較的高い出生率と県外からの人口流入により人口は増加傾向を示してきました。しかし2022年頃をピークとして人口は緩やかに減少へと転じ、今後は急速に高齢化が進むことが予測されています。この変化は、医療需要の量的・質的な増大をもたらし、特に生活習慣病、がん、認知症、在宅医療や介護との連携といった分野における体制整備を急務としています。

一方で、沖縄県では人口当たりの医師数は全国平均に達しましたが、地域による医師偏在、さらには診療科偏在の課題が残されています。都市部に医師が集中する一方で、離島やへき地では慢性的な医師だけでなく医療に関わる人材不足が続き、小児科、産婦人科、救急科など特に負担の大きい診療科において深刻さを増しています。これは住民の安心を揺るがすだけでなく、医療従事者の過重労働や若手医師のキャリア形成にも影響を及ぼす重大な問題です。

こうした状況に対し、琉球大学医学部では地域枠制度を設け、入学段階から地域医療を志す学生を受け入れています。卒業後は県内各地で診療を担う仕組みにより、医師の地域偏在の是正を目指しています。さらに琉球大学病院は、高度急性期医療を行うのみではなく、若手医師

の教育の場となっています。若手医師が医師として深い洞察や常に自らの診療をアップデートするためにはリサーチマインドを涵養することが必要です。このような、医師の生涯教育の場としての使命も果たすべく、これまで以上に地域全体の医療の質向上に医師会とともに活動したいと考えています。

私は琉球大学に赴任して20年になりました。医師会では、赴任してすぐに広報委員として活動させていただきました。その後は、代議員として微力ながら医師会活動に関与させていただきました。今後は理事として大学病院と医師会のかけはしとなり、教育・人材育成の取り組みを医師会と一緒に推進し、県内医療機関のニーズに沿った人材配置やキャリア支援に尽力してまいります。また、ICTや遠隔診療の活用、チーム医療の推進を通じて、限られた医療資源を有効に活用し、人口動態の変化に対応できる持続可能な医療提供体制の構築に努めてまいります。

沖縄の未来を支える医療を守るためには、大学、基幹病院、地域の診療所や病院、そして医師会が互いに連携し、共通の目標を持って協力することが欠かせません。私は会員の皆様と共に、県民の健康と安心を守り抜くために全力を尽くす所存です。

結びに、これまで沖縄県医師会を支えてこられた諸先輩方に深く感謝申し上げますとともに、会員の皆様のご指導・ご鞭撻を賜りながら、微力ながら理事としての責務を果たしてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。